

手がかりは写生帖！

#

おうこく

足跡探訪

～木島櫻谷がみた京都の風景～

みんなの探訪レポート / Innovate MUSEUM 事業実績

——「#おうこく足跡探訪」プロジェクトとは——

近代の京都画壇を代表する存在として近年再評価がすすむ日本画家・木島櫻谷（このしまおうこく・1877-1938）。動物画で知られる彼ですが、生涯にわたり山水画を描き続けたことも見逃せません。その豊かな表現の源となったのは膨大な写生でした。櫻谷文庫（木島櫻谷旧邸）に伝えられてきた写生帖は600冊余りにのぼります。

泉屋博古館での特別展「木島櫻谷—山水夢中—」（2022年11月3日～12月18日）にあわせて実施した「**おうこく足跡探訪**」プロジェクト（2022年9月～2023年1月末）では、木島櫻谷が日々出かけて描いた京都近郊の写生のうち5エリア15枚をwebサイトとSNSで公開し、その風景がどこなのか、みなさんから広く投稿を募りました。本プロジェクトはかならずしも厳密な写生地の特定を目指すのではなく、写生地の探索をつうじて櫻谷の写生の実態に近づき、また現代の風景との対比から、変わりゆく京都の景観や今なお地域に隠された魅力を掘り起こすことを目的としました。どの写生も手がかりが非常に少ないなか、当初の予想を超えてみなさんに熱心に探訪いただき、15枚すべての写生についての調査報告が集まりました。残念ながら紙数の都合上すべてのご紹介はできませんが、本レポートではみなさんからの投稿と木島櫻谷の写生を比較しながら、プロジェクトをふりかえります。



特別展「木島櫻谷—山水夢中—」ポスター

目次

おうこく足跡探訪とは	1 ページ
実施方法と対象エリア MAP	2 ページ
加茂川エリア	4 ページ
鞍馬・貴船エリア	6 ページ
鷹峯エリア	8 ページ
嵯峨エリア	10 ページ
八瀬・大原エリア	12 ページ
Innovate MUSEUM 事業実績	14 ページ

実施方法

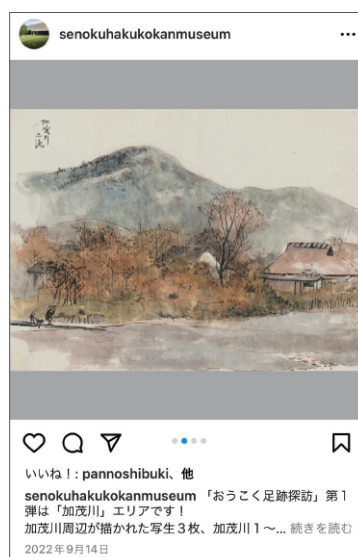
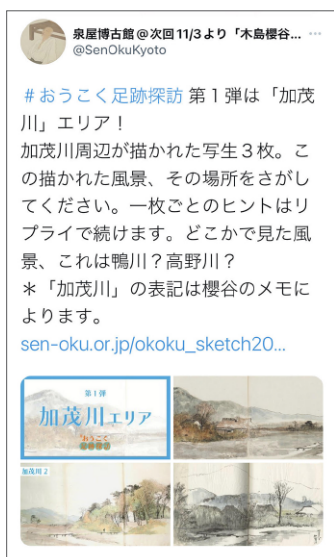
本プロジェクトは泉屋博古館の web サイトおよび SNS 閲覧者を対象として、以下の方法により情報を募りました。（特別展会期中には館内掲示や配付資料でも呼びかけました。）

- ① 泉屋博古館の web サイトおよび SNS で公開中の写生をチェック。
- ② 写生に描かれた風景と木島櫻谷が書き残した覚え書きを手がかりとして写生地を推測。
- ③ 推測した場所におもむき、木島櫻谷の写生と同じアングルをめざして（※1）写真撮影！
- ④ SNS（※2）または下記の方法（※3）で写真と撮影場所を投稿。→【調査報告完了!】

※1 写生と同じアングルが見つからなくてもかまいません。道中の写真も受け付けました。

※2 SNS で投稿する際はハッシュタグ「#おうこく足跡探訪」をつけていただくようお願いしました。

※3 SNS 以外にもメール添付、郵送、泉屋博古館へ直接持参の方法でも受け付けました。



SNSで5回にわけて写生を公開しました。左からTwitter、Facebook、Instagram



展覧会期間中には館内でも資料を配付して参加をよびかけました。

参加者には「オリジナル櫻谷写生バッジ」(非売品・全5種類)を贈呈しました。



対象エリア



健脚といわれた木島櫻谷は、矢立（携帯用筆）と紙を手にしばしば京都近郊へ写生に出かけました。描かれた場所を分類すると、おおきく「加茂川*」「鞍馬・貴船」「鷹峯」「嵯峨」「八瀬・大原」の5つのエリアに分けることができます。（*「加茂川」の表記は櫻谷のメモにしたがっています。）

「#おうこく足跡探訪」では各エリア3枚の写生を公開し、櫻谷が描いた風景を探しました。

加茂川 エリア

京都の風景として欠かせない鴨川。東には比叡山と東山連峰がつらなり、鴨川沿いを歩けばさまざまに表情を変える山並みを観察することができます。櫻谷はこうした山の稜線をつぶさに観察し、描き留めました。

(「加茂川」は櫻谷が用いた表記。現在一般的に表記される「鴨川、賀茂川」全般をさすと思われます)

おうこく写生地 MAP (加茂川エリア)



加茂川1

5008-06

おうこくさんの手がかり 加茂川1

- 「加茂川上流」
- 明治36年(1903)11月
- 自宅(烏丸御池付近)から加茂川經由で鞍馬・貴船に向かう途上
- このあと市原野を通過

投稿①



推定根拠:

比叡山山頂と中景の低山の位置関係(低山の鞍部と比叡山山頂が上下に揃う所)
加茂川の流れが少し左(東)に向きを変えつつある所
手前の木橋は陸軍部測量局の明治20年測図の地形図でも確認できる。

岡村眞さんの投稿(一部)

【加茂川1】 遠景に長く連なる比叡山の眺めと、ゆるやかに続く川の流れが写生そっくりです。見下ろす角度までねらって撮影くださったことが伝わってきます。写生には川の両端に木橋が描かれていますが、当時はそれだけ中州が広がったということでしょうか。変わらぬ山と変化する風景が共存しています。

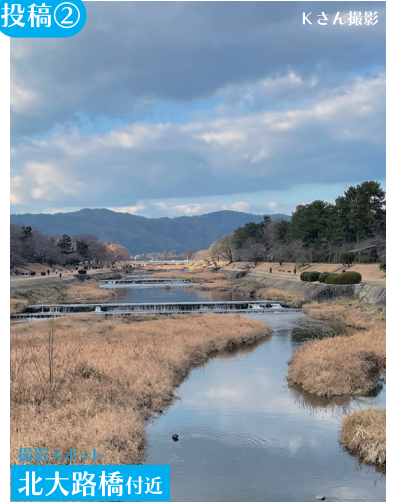
加茂川2

5064-02



投稿②

Kさん撮影



撮影スポット
北大路橋付近

おうこくさんの手がかり 加茂川2

- 明治38年(1905)4月
- 自宅(烏丸御池付近)から鞍馬・貴船に向かう途上

【加茂川2】もりあがった中州と河岸を歩く人びと、そして遠景の山のなだらかな稜線という要素が重なり、櫻谷の写生とよく似た印象をもたらしています。

このへんかと思ったんですけど、山が遠い……。

Kさんの投稿

加茂川3



おうこくさんの手がかり 加茂川3

- 4月(年代不詳)
- 自宅(烏丸御池付近)から加茂川をへて、貴船川へ向かう途上
- このあと二軒茶屋を通過

投稿⑤



撮影スポット
御菌橋

おしさんの撮影

投稿③



撮影スポット
川上大神宮付近

岡村真さん撮影

推定根拠:

比叡山と中景の低山の位置関係と容姿
前景の小川に関連すると思われる小川は参謀本部陸軍部測量局の明治20年測図の地形図で確認できる。西賀茂の土地改良・区画整理の結果、西賀茂には現在数本の用水が流れており(一部は暗渠)、南流集散しながら最終的には南北三か所で加茂川に注いでいる。とくに真ん中の吐出口では水量が多く原画の小川を彷彿させる。原画の右中景に描かれている田畑は西賀茂のもので、描かれていない(川面は見えなかったであろう)加茂川の向こう側の終野の田畑を奥に描いていると考えられる。

岡村真さんの投稿(一部)

加茂川3に挑戦!

前景の山が家々の屋根とかぶってしまいましたがどうでしょうか。それっほいかな?(上賀茂橋西詰付近から)

ktbtさんの投稿

投稿④



撮影スポット
上賀茂橋西詰

ktbtさん撮影

志久呂橋から北山大橋まで歩いてみた(←都合により逆ルート)。ゼーぜん分からなかった😅 これは御菌橋のところから。

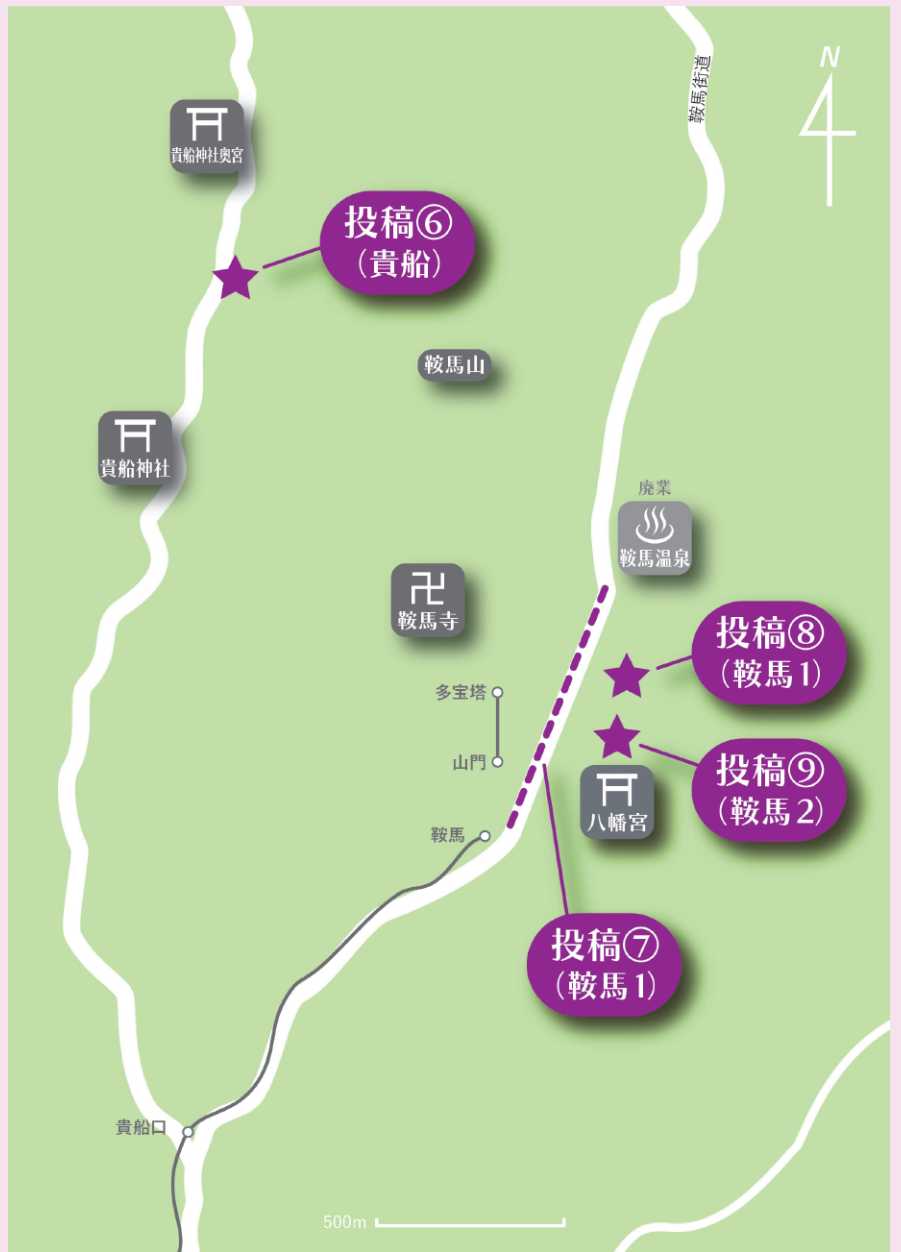
おしさんの投稿

【加茂川3】投稿④は、賀茂川・家屋・比叡山の奥行き感が写生の雰囲気をよくとらえています。投稿③は、比叡山手前の低山に注目。前後感がはっきりと見える距離感は櫻谷の写生に近いものがあります。投稿⑤、中央の比叡山のシルエットは櫻谷が稜線のみで描いた遠景の山に酷似していますね。暮れゆく空のグラデーションが魅力的です。

鞍馬・貴船 エリア

おうこく写生地MAP (鞍馬・貴船エリア)

天狗伝説が残る鞍馬と、清らかな水が流れる貴船神社で有名な貴船。櫻谷はしばしば画友や弟子たちとともに貴船の宿に宿泊し、豊かな山中の風景を描きました。今は観光地として整備されていますが、櫻谷の写生を通じて山水に囲まれた暮らしの風景が見えてくるようです。



貴船

5066-15



おうこくさんの手がかり 貴船

- 明治 37 年 (1904) 11 月
- 鞍馬・貴船で 2 泊の写生旅行の初日。貴船の常宿付近か

投稿⑥



料理旅館「ひろ文」付近 岡村真さん撮影

【貴船】雪にかがやく貴船を探訪いただきました。木立の奥に見える山々の重なり具合を追求して下さったことがうかがえます。山と山のあいだにのぞく木立にまで着目し、貴船神社の鎮守の森と推定して撮影場所を特定していくアプローチには感服です。櫻谷の写生をつぶさに観察して下さったのでしょう。

推定根拠：

後景に描かれた右の杉山、左の山、最奥の山の容姿。

中景に貴船神社の境内林が描かれている。

左に小屋掛けが描かれているが、現地の対岸にも小規模な平地がある。

岡村真さんの投稿(一部)

鞍馬1

5008-09



おうこくさんの手がかり 鞍馬1

- 明治36年(1903)11月
- 自宅(烏丸御池付近)から「加茂川」經由で鞍馬山へむかう途上
- 加茂川1を描き、市原野村を経た後
- 「鞍馬村」

投稿⑦

ASさん撮影



撮影スポット
鞍馬駅～鞍馬温泉

鞍馬駅周辺を歩いてきました。
駅からくらま温泉までの間、2箇所で撮影しました。
どちらも「鞍馬1」のイメージです。
「鞍馬2」は見つかりませんでした。

ASさんの投稿

投稿⑧



撮影スポット

鞍馬寺門前付近の鞍馬川左岸

岡村眞さん撮影

推定根拠:

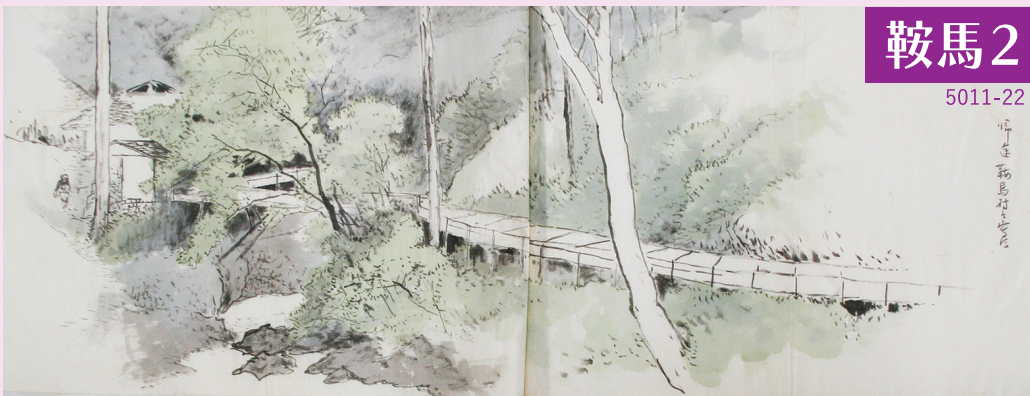
前景と奥の家並み
鞍馬川の断面形状。
手前の小橋。この橋は陸軍部測量局の明治20年測図の地形図でも確認できる。

岡村眞さんの投稿(一部)

【鞍馬1】投稿⑦では、鞍馬川を右岸沿いに写生の風景を探していただきました。川を見下ろす角度や右端にすっと立つ樹木の様子が櫻谷の写生とよく似ています。投稿⑧では、写生とそっくりの橋を発見していただきました。立ち並ぶ家屋や遠景の木立には現在でも櫻谷の写生と近い印象が残っていますが、一方で写生のなかで特に象徴的な水車が姿を消していたり、当時はなかったガードレールが新たに設置されていたりと櫻谷が描いた頃からの時間の経過を感じます。

鞍馬2

5011-22



おうこくさんの手がかり 鞍馬2

- 制作年不明 5月20日
- 「帰途鞍馬村にて写す」

投稿⑨

岡村眞さん撮影



撮影スポット

鞍馬寺門前の北八幡宮・地藏寺付近

考察:

原画に描かれた架上形水道、流れ下る急流、左奥の建物がヒントになるが、判定がむずかしい。雰囲気のような場所で撮影したが、実際はもう少し上流の川幅の狭い所が正解かもしれない。

岡村眞さんの投稿(一部)

【鞍馬2】特に見当をつけるのが難しい写生に挑戦していただきました。近い構図をもとめて丹念に探訪くださったことがうかがえる一枚です。

かわいい相棒さんたちと
探訪してくださった方も!



カメラさん撮影



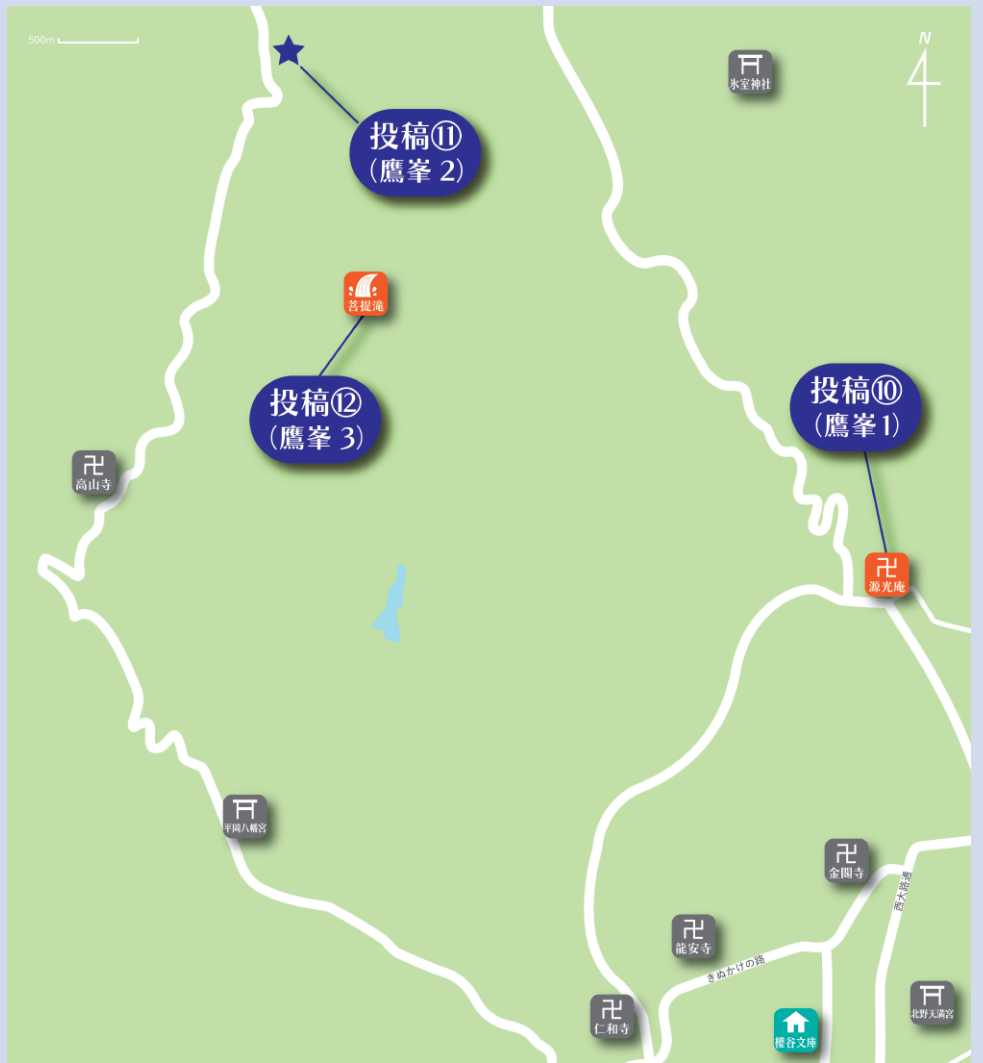
さふい

カメラさん撮影

鷹峯 エリア

おうこく写生地MAP (鷹峯エリア)

自然豊かな洛北の山地、鷹峯。櫻谷は梅ヶ畑や菩提滝をめざし、画家仲間と鷹峯街道と呼ばれる山道をしばしば行き来しました。周山街道が開通するまでは、丹波や若狭に通じる道のひとつであり、道沿いにはいくつかの集落がありました。江戸初期に本阿弥光悦が移り住み形成された光悦村は、鷹峯の山々への入り口にあります。



鷹峯1

5059-01



おうこくさんの手がかり 鷹峯1

- 明治 39 年 (1906) 11 月
- 画塾の仲間と鷹峯村・梅ヶ畑方面へ出かけたときの写生

【鷹峯1】鷹峯からのぞむ比叡山を撮影いただきました。夕陽に浮かび上がる稜線のかたちが、櫻谷の写生とかぎりなく近いですね!手前になだらかに続いている丘も含め、櫻谷がよく観察して写生していたことがうかがえます。一方で、当時はひたすら田畑が広がっていたこのあたりには、今はたくさん住宅が立ち並んでいます。景観の変化も見どころですね。

鷹峯1を探して。梅ヶ畑を訪れば良かったか…
どうやら登りすぎたようです。鷹峯は源光庵近くの住宅地から撮影📷
kitbtさんの投稿

投稿⑩

撮影スポット
源光庵付近



kitbtさん撮影



鷹峯2

5056-18

中郷村より

おうこくさんの手がかり 鷹峯2

- 明治38年(1905)10月23日
- 鷹峰から梅ヶ畑村に向かう途上
- 「中郷村にて写す」中郷村は当時の通称か
- このあと菩提の滝の下流を描いている

投稿⑩



撮影スポット

北区中川北山町

岡村眞さん撮影

【鷹峯2】櫻谷がたどった道程を考慮して写生地を探されました。整備が進むと、同じアングルにたどり着くことは困難になってしまいますが、遠景のこんもりと丸い山は当時のままの姿です。

考察：

このスケッチの後に「菩提の滝」（鷹峯1）を描いているとのことなので、櫻谷は鷹峯から京見峠、杉坂、中川、菩提道という行程の中でこの「鷹峯2」を描いたと考えた。というのは、高雄経由の現在の周山街道（国道162号）は明治35年に全通したので、それまでの周山へ向かう主街道であった京見峠越えのルートを想定したのである。原画にあるような両側から谷が迫り、一定の民家の集積があるのは、この想定ルートの中で杉坂と中川の二つの集落である。最初に杉坂を往復して踏査したが、原画に似た展望と景色は見つからなかった。その後、中川に向かい国道162号を清滝川に沿って下りながら山の遠望を中心に探査した。しかし、原画に即したアングルは見つからなかった。ただ中川の集落のどこかで描かれたのは間違いないように思う。（後略）

岡村眞さんの投稿（一部）

三枚目、菩提の滝。ありましたー。 #おうこく足跡探訪 #中の人探索中 あっただけど、さてしかし… 泉屋博古館 Twitter

【鷹峯3】写生に大きな欠損が見られた菩提の滝。隠された部分には、青く美しい滝壺がありました。写真上部に写る斜めに張り出した木は、写生の画面左上に描かれている白い幹と同じ木でしょうか。時が流れ、幹が太く成長しているようにも見えます。写生と写真どちらからも、滔々と流れ落ちる水音が聞こえてくるようです。

おうこくさんの手がかり 鷹峯3

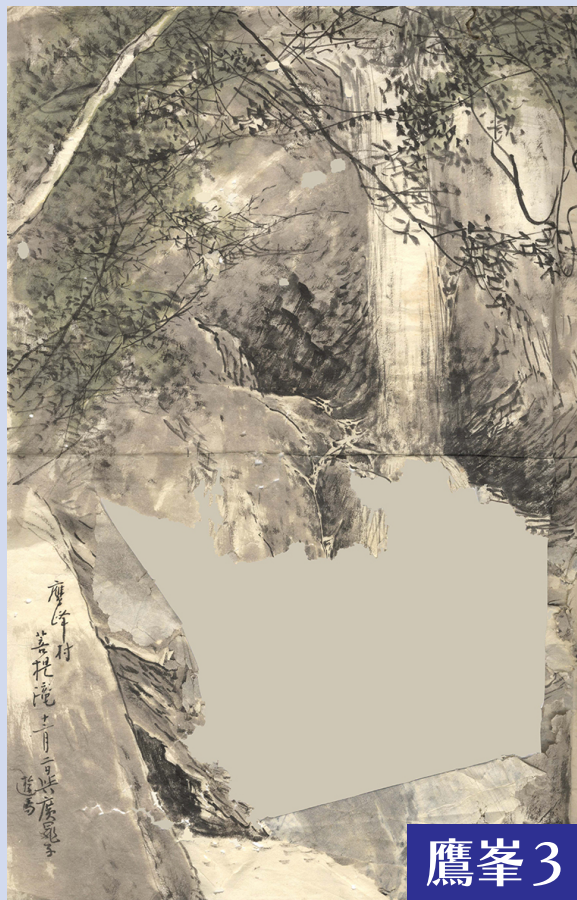
- 制作年不明 12月2日
- 「菩提滝」

投稿⑫



菩提の瀧

泉屋博古館twitterより



鷹峯3

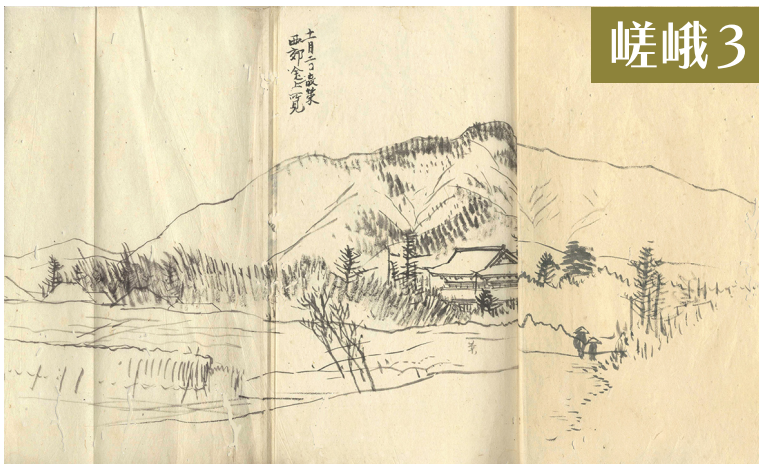
※画面中央下部は欠損

年月を経た写生帖は劣化も進んでいます。令和4年度、住友財団の助成で写生帖の修復がおこなわれました。ただしそれは全体の一部で、まだ多くの写生帖が修理を待っています。（図は修理前）

嵯峨 エリア

嵯峨嵐山は、中京暮らしだった青少年期の櫻谷にとって身近な郊外。半日もあれば出かけていたようです。一人で、あるいは弟の桃村と、さらには師の今尾景年と門下生で桜の嵐山にも出かけています。もう少し足を延ばした保津川もお気に入り、その峡谷美は応挙ならずとも画家の絵心を魅了したのでしょう。

おうこく写生地 MAP（嵯峨エリア）



嵯峨3

おうこくさんの手がかり 嵯峨3

- 明治33年(1900)11月2日
- 「西郊途上一覧」
- このあと「〇沢池」に行っている(広沢池か?)

白描(着彩していない)の
写生も見こたえあり!



嵯峨1

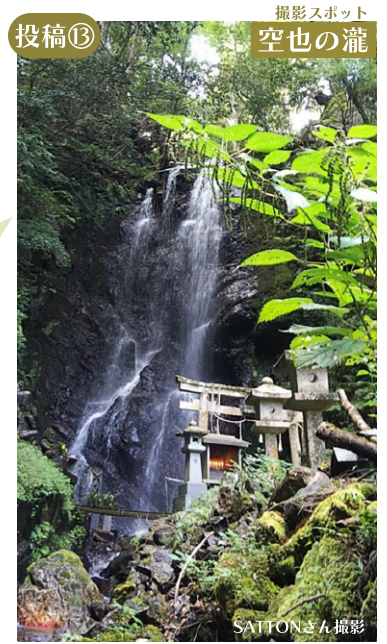
おうこくさんの手がかり 嵯峨1

●明治31年(1898)8月4日 ●「空也瀧全景」

日本画家 木島櫻谷が明治末頃写生した空也の瀧。
出来るだけ同じ構図で撮ってみた。
結界が張られ月輪寺の管理を離れた明治期も行場として
護られていたようだ。大変興味深い。
恐らく流れの向かいの岩に座り描いたようだが今は台風
の倒木で埋まっている。

SATTON さんの投稿

【嵯峨1】清浄な空気のただよう空也の滝を撮影いた
できました。投稿者さんはしばしば空也の滝で滝行をされ
るとのことで(!)、行場としての観点から詳しく観察され
て参考になります。写生には描かれていない石造りの
鳥居や灯籠は、後年に建てられたのでしょうか。奥に見
える細い木が行者のための渡橋だとすると、こんなに
細くて大丈夫だったのか心配になってしまいます。櫻谷
さんも、滝行に挑戦したのでしょうか……?

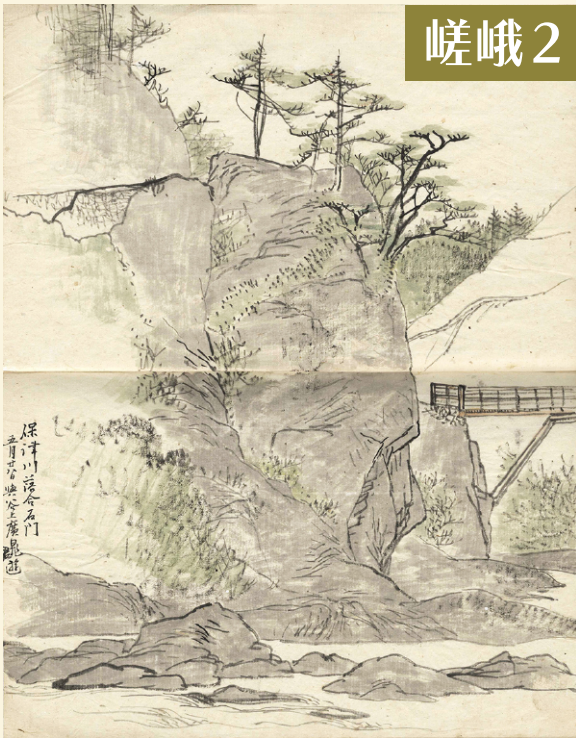


撮影スポット

空也の瀧

投稿⑬

SATTONさん撮影



嵯峨2

おうこくさんの手がかり 嵯峨2

●明治32年(1899)5月28日
●「保津川落合石門」

投稿⑭



ocatyさん撮影

撮影スポット

保津川落合石門

行ってきました♡
絵の中で岩の奥に見えていた橋はも
うありませんでしたが、橋の基礎で
はないかなと思われるものも発見😊
ocatyさんの投稿

【嵯峨2】すがすがしい秋晴れのなか、
嵯峨は保津川落合石門を撮影いた
できました。張り出した岩の輪郭が櫻
谷の写生とぴったり同じです。岩肌
に生える緑まで、櫻谷がつぶさに観
察していたことがわかります。遠景
に描かれた橋は今ではもう架かって
いないものの、投稿者さんは橋の基礎
と思われるものを見つけてくださいま
した。写生地の特定につながる貴重
な発見ですね!



投稿⑮

haro.9012さん撮影

広沢池周辺

嵯峨エリアを探しに行ってきました…
大覚寺大沢池～広沢池の途中、だ
んだん存在感を増して現れた北嵯峨の
峰。稜線はよく似た感じ(もって西から
見ると稜線が短くなりそう)だけど、目
印の建造物がわからずじまいです。~
haro.9012さんの投稿

haro.9012さんの投稿

【嵯峨3】山の形状を手がかりに「西
郊途上」の風景を探してくださいまし
た。稜線や尾根、山頂に木々が茂る
様子まで、櫻谷の写生と酷似して見
えますね!!それでも、写生の中心に
ある建造物がみあたらないとのこと。
山の手前に大きな丘が横たわって
いるのも気になりますね。おそらく写
生地はすぐ近くのはず。こちらの投稿
を手がかりにさらなる探訪をしまし
ょう!

八瀬・大原 エリア

おうこく写生地 MAP (八瀬・大原エリア)

国道をバスが通り観光客にも人気のこのエリア。けれど少しはずれると茅葺の民家がのこり、山々に囲まれ田畑広がる里の風景はいつも変わらぬ趣を湛えています。八瀬などは鞍馬への1つのルートとして立ち寄ってもいます。



八瀬

5011-08

おうこくさんの手がかり  八瀬

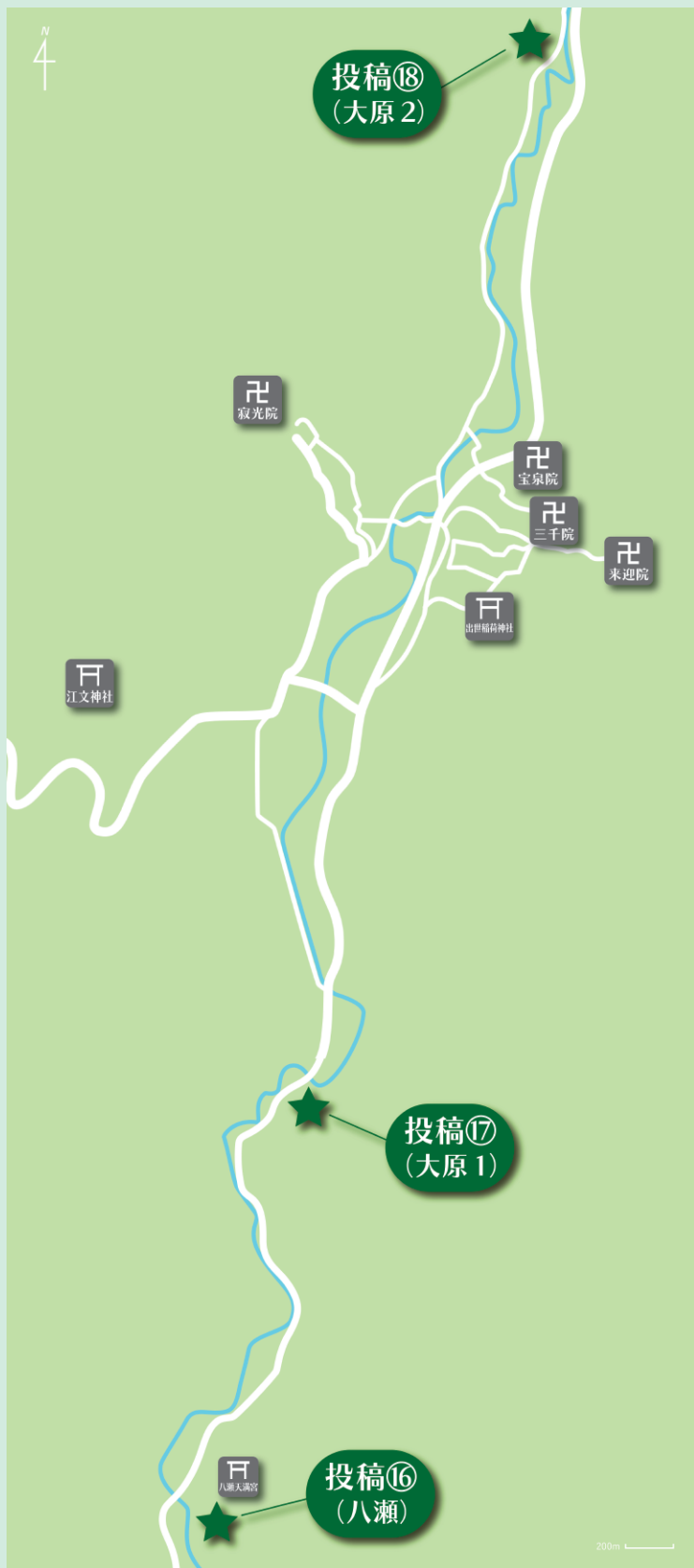
- 制作年不明 4月
- 大原へ向かう途上で八瀬を通過
- 「八瀬村附近にて写す」

投稿⑬



八瀬天満宮参道付近

岡村眞さん撮影



根拠：

- 1.民家の配置
 - 2.背景の山麓景観
- 岡村眞さんの投稿 (一部)

【八瀬】暮れゆく八瀬の山麓を撮影いただきました。左上から右下にかけて山に影が落ちる様子が、櫻谷の写生にそっくりです。時間帯まで狙ってくださったのでしょうか。家屋の多くは当時から建て替えられているようですが、ほかのエリアに比べて写生のころの姿かたちをかなり忠実に残しているように見えます。

大原1

5011-09



投稿⑦



撮影スポット
高野川の美濃瀬橋

岡村眞さん撮影

推定根拠：

背景の山のスカイラインと容姿

陸軍部測量局の明治 20 年測図の地形図によると、櫻谷の写生当時の大原街道（若狭街道、敦賀街道とも）には現在の美濃瀬橋も花尻橋もなく東の山麓にかなり近い所を通過していたと考えられる。同図によると左岸山麓に建物の記載があり、これが原図に描かれた民家の一つかもしれない。

岡村眞さんの投稿（一部）

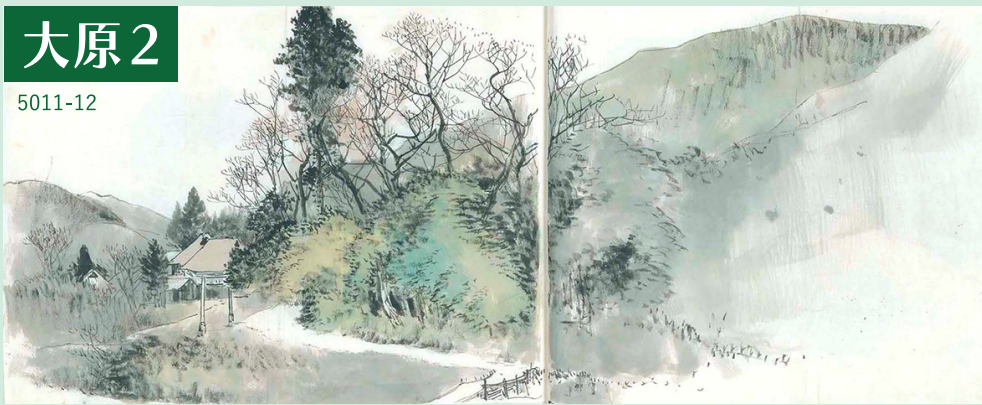
おうこくさんの手がかり 大原1

- 制作年不明 4 月
- 八瀬を通過したのち大原へ向かう途上
- 「大原村附近ニテ写す」

【大原1】これまでの探訪から櫻谷が描いた山の稜線の正確さを実感された投稿者さん。写生が描かれた当時から各段に整備された大原の街道でも、山のすがたを具に追い求めてくださいました。過去の地図も参照しつつ当時の地形に思いを馳せた、充実の調査報告です。

大原2

5011-12



【大原2】雪の残る大原を探訪くださいました。遠景の山が右斜め上から奥へ続いていく様子は、写生をそのまま現実へ移したかのようです。さらには、地元の方へのきこみ調査をさせていただきました。それによると、写真左手の住宅は 50 年ほど前に建てられたもので、それまでは写生のように畑だったとのこと。櫻谷が見つめた風景を記憶にとどめている方がおられることに感動しました。

おうこくさんの手がかり 大原2

- 制作年不明 4 月
- このあと寂光院に行っている

推定根拠：

1. 遠景の山の容姿
 2. 中景の民家の存在、道路の形状
- 岡村眞さんの投稿（一部）

さらに・・・

付記：

現地でも通り合わせた古老（70 余歳ほど）に原画を示しながら、詳しく聞き取りすることができた。要旨は次のとおり：

左の住宅は 50 年ほど前に建てられた。それまでは原画のように畑であった。

道路脇に描かれている鳥居があったことは知らない。ここ古知平の氏神、古知谷神社のものだろう。同神社には最近になってコンクリート造の鳥居を建てた。

中景の高木のある辺りは森になっていた。最近一面すっかり伐採された。この高木が神木であったかどうかはわからない。前景、最前に描かれている柵は古知谷をまたぐ街道の橋ではないか。今も橋はある。

全体として原画が描かれた場所は推定どおりだろう。こんな場所を描いた人がいたと聞いて驚いた。ありがたいことだ。

岡村眞さんの投稿（一部）

投稿⑧



撮影スポット
旧・大原街道の
京都バス古知谷停留所付近

岡村眞さん撮影

「近代京都—日本画の制作・鑑賞・流通をめぐるネットワークの再構築」

本事業は、近代京都画壇の木島櫻谷（このしまおうこく 1877-1938）をとりあげ、地域の博物館が核となり埋没した資料や機能を掘り起こし、近代京都における日本画ネットワークの再認識をすすめ、「文化都市」としての京都の輝きを教育・文化・観光面から強化することを目的に実施しました。

令和4年秋、泉屋博古館特別展「木島櫻谷—山水夢中—」と、櫻谷文庫（櫻谷旧邸）、南陽院（南禅寺塔頭、櫻谷障壁画）、宮脇賣扇庵（扇子商・扇面天井画）との連携公開に関連し、様々なイベントや作成物を通じ、地元市民や観光客へのアピールと理解促進、そしてデジタルアーカイブ公開による世界への発信に取り組みました。

1 近代京都日本画の文化資源発掘と整備

(1) 木島櫻谷写生帖（櫻谷文庫蔵）のデジタル化

木島櫻谷は特に写生に熱心で、いまなお 600 冊以上の写生帖が櫻谷文庫に伝存する（現在、泉屋博古館寄託）。それは当時の画家の視点や古きよき日本の風景を伝える貴重な資料でもあり、そのうち風景を扱う大判写生帖 42 冊全頁をカメラと高精細スキャナで撮影した。

実施期間：2022年9月～2023年1月 実施場所：株式会社サビア写場 作成物：43冊940カット



(1) 写生帖スキャニング作業

(2) 南陽院襖絵デジタル化

櫻谷が明治43年に手がけた南陽院の襖絵（全5室50面）は、これまで学識者間でも知られていなかった。彼の山水画の代表作として、文化財用大型スキャナにて撮影、記録・研究・公開に資する高精細画像を取得した。

実施期間：2022年9月 実施場所：南陽院本堂（南禅寺塔頭） 作成物：53カット



(2) 南陽院襖絵スキャニング作業

(3) 先進事例調査（東京・横山大観記念館）

櫻谷文庫と同様、画家自身の構想による邸宅と資料を所蔵する横山大観記念館を訪問し、他との連携、蔵品画像のアーカイブや活用法などをヒアリングし交流を深めた。

実施期間：2023年2月 実施場所：横山大観記念館（東京都台東区）

助言者：横山優子氏（横山大観記念館事務局長兼学芸員）

参加者：門田理氏（櫻谷文庫代表理事）、門田節氏（同文庫公開展示担当）、実方葉子（泉屋博古館学芸部長）



(3) 横山大観記念館での調査

2 ICTによる日本画文化資源のアウトリーチ (1) 写生帖アーカイブ化

① 写生帖デジタルアーカイブの発信

1-(1)で取得した櫻谷の主要写生帖の画像を通覧・検索可能な状態に整備し、ウェブ上で公開した。（3月末公開）

<https://okoku-shaseichou.com/>

実施期間：2022年10月～2023年3月 実施場所：株式会社サビア写場



木島櫻谷写生帖データベース



② 写生帖デジタルアーカイブを通じた調査・交流（詳細は1～12頁）

櫻谷による京都近郊写生の代表例を公開し、写生地を探す市民参加型プロジェクト「おうこく足跡探訪」を実施した。

実施期間：2022年10月～2023年3月 実施場所：webおよび泉屋博古館内 対象者：web閲覧者、来館者

コーディネーター：中野ふくね（京都市立芸術大学助手） 作成物：館内配布物、館内掲示物、参加記念缶バッジ、投稿を反映した「おうこく写生地マップ」

参加者の声

「大変有意義な機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。地元在住なのではじめは簡単にわかるだろうと踏んでおりましたが、最初の『加茂川エリア』で見通しの甘いことを思い知らされました。木島櫻谷画伯の細やかな観察眼に思いを馳せるとともに、郷土をあらためて見なおすことができました。ありがとうございました。」



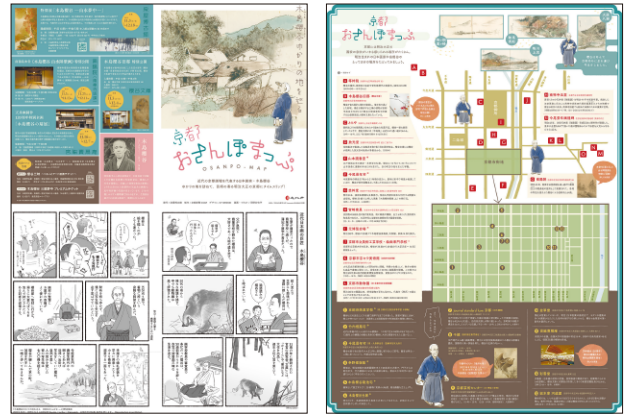
櫻谷による「加茂川」の写生

3 京都異分野文化拠点の連携と周遊促進

(1) 京都近代日本画周遊マップ製作

泉屋博古館・櫻谷文庫・南陽院・宮脇賣扇庵を核とする京都の地図を作成した。各施設の公開情報の詳細とあわせて、明治大正期の日本画家ゆかりの史跡や関連産業の小売り店舗のうち今日も訪問可能な箇所を記載して周遊を誘導した。

実施期間:2022年10月～12月下旬 実施場所:京都/東京
 発行:泉屋博古館 製作:京都新聞COM デザイン:JY DESIGN
 漫画・イラスト:河野沙也子 作成数量:10,000部



「京都おさんぼマップ」(左:表面、右:中面)

(2) 連携先リレー講座

① 記念講演会「櫻谷の再評価—その広がりと深まり—」

実施期間:2022年11月27日 実施場所:泉屋博古館講堂
 講師:田島達也氏(京都市立芸術大学教授)
 司会/コメンテーター:実方葉子(泉屋博古館学芸部長)
 参加者:41名

② 現地講演会「木島櫻谷写生帖の修理—中間報告—」

実施期間:2022年11月23日 実施場所:櫻谷文庫画室
 講師:吉田裕志氏(有限会社墨仙堂)
 参加者:27名

③ 現地見学会「南陽院障壁画鑑賞会」

実施期間:2022年11月11日 実施場所:南陽院(南禅寺塔頭)
 講師:奥村美佳氏(京都市立芸術大学准教授・日本画家)
 ご案内:実方葉子(泉屋博古館学芸部長)
 参加者:20名

④ 現地見学会「櫻谷ゆかりの扇老舗を訪ねる」

実施期間:2022年11月18日 実施場所:宮脇賣扇庵京都本店
 講師:小林聡氏(宮脇賣扇庵店長)
 進行:実方葉子(泉屋博古館学芸部長)
 参加者:10名



① 記念講演会(於:泉屋博古館)



② 写生帖修理のお話(於:櫻谷文庫)



③ 障壁画鑑賞会(於:南陽院)



④ 天井扇面画のお話(於:宮脇賣扇庵)

参加者の声

「とても楽しかったです。説明してくださり、変わった扇にびっくりしたり、本当に良い時間をすごしました。」
 「修理過程を実際に見てみたいと思いました。」「この度は貴重ですばらしい企画をありがとうございました。」「今回の連携公開はとても良かったです。特に南陽院は良かったです。」「田島先生のお話がわかりやすく、流れがつかめて良かったです。」「京都の絵画の歴史、画家の秘話等、とても興味深く素晴らしいお話でした。」「いつも丁寧な展示解説、興味深い展覧会と講演会をありがとうございます。日本画の明治以降の流れを非常にわかりやすく解説して頂きとても面白かったです。」「ますます櫻谷さん好きになりました。」

(4) 写生イベント「みんなで歩いて描いてみよう @ 賀茂川」

「おうこく足跡探訪」(左頁2-(1)-②)を通じて特定された櫻谷の写生地のなかから賀茂川に出向き、櫻谷のみた景色に思いを馳せながら写生するイベントを開催した。

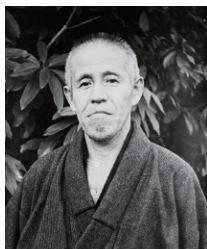
実施期間:2023年3月11日 実施場所:賀茂川(北山～御園橋界限) 参加者:8名
 講師:奥村美佳氏(京都市立芸術大学准教授・日本画家)
 スタッフ:実方葉子(泉屋博古館学芸部長)、坂井さおり(泉屋博古館広報担当課長)
 コーディネーター:中野ふくね(京都市立芸術大学助手)



参加者の写生

講師を囲み、みなで鑑賞

木島櫻谷 (このしまおうこく・1877-1938)



明治 10 年 (1877) 京都生まれ。16 才で今尾景年に入門、京都画壇の伝統を基礎に西洋画法をもとりいれ、卓越した運筆技術と、自然観察と抒情の調和する平明かつ洗練された画風で高く評価された。明治 40 年にはじまる文展の花形として活躍、京都画壇を代表する一人に数えられた。晩年は 30 代で建設した京都郊外の衣笠の自邸で詩書画に親しむ文人的生活を送った。山水、花鳥、人物いづれにも優れるが、ことに動物画で名高い。代表作に《しぐれ》(明治 40 年 東京国立近代美術館蔵)、《万壑煙霧》(明治 43 年 株式会社千總蔵)、《寒月》(大正元年 京都市美術館蔵)、《駅路之春》(大正 2 年 福田美術館蔵)がある。

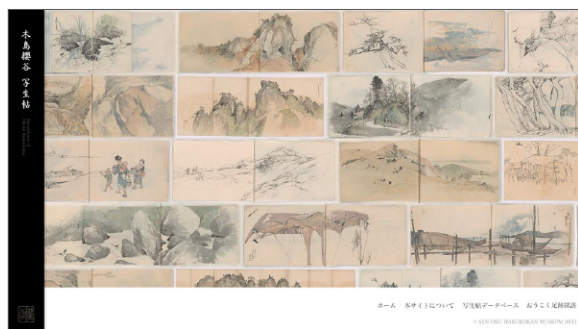
参考文献：実方葉子『木島櫻谷 画三昧への道』(東京美術 2022 年)、『特別展 木島櫻谷—山水夢中』(泉屋博古館 2022 年)

ついに

櫻谷文庫所蔵 木島櫻谷写生帖データベースが公開!

木島櫻谷の写生帖をデータベースとして集成する取り組みがはじまりました。第一弾として風景を描く大判写生帖 42 冊をとりあげ、全頁を公開しています。櫻谷の遺品資料を保管してきた公益財団法人櫻谷文庫には 600 冊あまりの写生帖が伝わっています(現在、泉屋博古館寄託)。それらの中心をなすのは櫻谷手製の和紙帖。10 代後半から 30 代半ばまでの前半生に描き綴ったもので、内容は動物、花鳥、風景、人物、器物など多岐にわたります。

懐には常に写生帖と矢立があり、暇さえあれば写生に出かけたという櫻谷。遺された写生帖を一頁ずつめくるとは、櫻谷が何に惹かれ、いかに理解し、描きとっていったか——その「目」と「手」、そして「心」の階梯をたどることでもあるようです。これまで櫻谷文庫と泉屋博古館で進めてきた調査をふまえ、将来的には写生帖全点全頁のデータベース化を目指しています。データベース公開により、多くの方にその魅力が伝わること、そして様々な角度から分析が進むことを期待します。



この冊子に掲載している写生に「〇〇〇〇-〇〇」のナンバーがついているものはデータベースで公開しています。櫻谷の写生をぜひ高画質でご覧ください!



<https://okoku-shaseichou.com/>

編集後記

大学院生を動員して、櫻谷さんの写生帖調査に取りかかったのは 2012 年のこと。長持のなかで眠っていた大量の写生帖は、年月を経て弱っていましたが、頁をめくるとに現れる写生の端正さ、筆の素早さ、飽くなき好奇心にただ圧倒されたものです。ことに郊外での風景写生は、おなじ京都在住者としても懐かしく新鮮な景色でした。いまこの場所はどうなっている? という興味と、そしてなにより、多くの方とその魅力を共有したい、そんな思いつきではじめた写生地プロジェクトですが、幸いにも個性あふれる投稿が集まりました。寄せられた新たな情報に興奮しつつ、思い思いに櫻谷の足跡をたどられるご様子からハイキング気分も分けていただきました。貴重な時間を割いて踏査して下さった投稿者の皆様に心からお礼申し上げます。このプロジェクトは館内外の協力者に支えられました。ことに写生帖データの整理から今回のプロジェクトでの発信、本冊子のデザインやテキストの大半をてがげた中野ふくね氏に労いの言葉を贈ります。

実方葉子(泉屋博古館学芸部長・Innovate MUSEUM 事業担当者)

櫻谷が描いた京都の写生には、だれもが知る名刹やランドマークはあまり出てきません。意識しなければ通り過ぎてしまいそうな風景が絶妙な構図で、実に魅力的に切り取られています。だからこそ、写生地の特定は容易くないだろうと予想していました。ところが、投稿して下さったみなさんは山のかたちを手がかりとして方角や地形を鋭く推察し、まるで写生を現実にしたかのような風景を見つけてくださいました。総まとめとして開催した写生イベントでは、みなさん筆ペンで写生をするのは初めてだったにもかかわらず、奥村先生も驚かれるほど充実した写生の数々が完成しました。同じ景色を見ていたのに切り取るどころも描きかたも人それぞれで、櫻谷が画友たちと出かけた写生旅行の楽しさを味わえた気がしました。今日、目の前の景色を残したいと思えば携帯やカメラで瞬時に写真を撮ることができますが、便利なそれらを筆と紙に持ち替えて写生をしてみると、自分が本当に見つめているものを知ることができるかもしれません。

中野ふくね(おうこく足跡探訪プロジェクトコーディネーター・京都市立芸術大学助手)

みんなの探訪レポート/ Innovate MUSEUM 事業実績 報告書

令和 5 年 3 月 31 日発行

編集 実方葉子・中野ふくね

デザイン 中野ふくね

発行 公益財団法人 泉屋博古館 〒 606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24

©2023 Sen-oku Hakukokan Museum.

*無断転載することを禁じます。